

## 第10回遊佐町立学校適正整備審議会 会議録

会議日時 平成31年2月21日（木曜日） 19時00分～20時30分

会議場所 遊佐町役場 議事所

出席者 伊藤 順一（遊佐町小中学校長会会長）  
松本 三也（遊佐町小中学校長会）  
太田 くみ（蕨岡まちづくり協会）  
佐藤 憲三（遊佐地域づくり協議会）  
眞嶋 一（稲川まちづくり協会）  
伊藤 悦子（西遊佐地区まちづくりの会）  
小田原 裕（高瀬まちづくりの会）  
佐藤 浩毅（吹浦地区まちづくり協議会）  
今野 博義（蕨岡小学校PTA会長）  
川俣 善幸（遊佐小学校PTA会長）  
阿部 勝志（高瀬小学校PTA会長）  
高橋 太一（吹浦小学校PTA副会長）  
那須 正幸（遊佐中学校PTA会長）  
池田与四也（遊佐町総務課長）  
伊藤 新一（遊佐中学校教育後援会会長）  
佐藤 美紀（前遊佐中学校PTA副会長）

欠席者 高橋 智（藤崎小学校PTA会長）  
伊藤 淳子（杉の子幼稚園園長）

傍聴人 山形新聞社 1名 他 6名

協議事項 (1) 第9回遊佐町立学校適正整備審議会会議録の承認  
(2) 資料説明（2月実施アンケート結果）  
(3) 意見交換  
①アンケート調査結果について  
②最終答申について

※以下、赤字の部分については個人情報取扱いの観点より公開は控えさせていただきます  
協議内容の概要

教育課長 皆さまどうもご苦労さまです。時間早いのですが予定している皆さまが全員揃いましたので、ただいまより第10回遊佐町立学校適正整備審議会を始めさせていただきます。初めに伊藤会長よりごあいさつをいただきたいと思ひます。

伊藤会長 改めまして皆さんこんばんは。年度末のお忙しいところ第10回遊佐町立学校適正整備審議会にご出席をいただきましてありがとうございます。ようやく春めいてきたという感じでございますが、またここに来てインフルエンザがぶり返している状況にあるようでございます。十分お身体にはご留意いただきたいと思ひます。さて当審議会も早いもので10回目でございます。昨年の2月

ですから丸々1年、重ねてまいりました。その間、委員の皆さんには色々な視点からご意見、ご要望等をいただきまして本当に感謝申し上げるところでございます。そしてまた、アンケートも2回取らせていただきまして、その2回目のアンケート結果が皆さまの方には前もってお送りさせていただいておりますので、ご確認いただいているところと思います。そういうところから皆さんとともにまた慎重審議を重ねて最終答申に向けて進めたいと思っておりますのでどうぞご協力のほどよろしくお願い申し上げます。よろしくお願いいたします。

教育課長 ありがとうございます。本日は委員18名中16名の出席ですのでよろしくお願いしたいと思います。初めに前回の、経過を事務局より報告させていただきます。1月18日に行なわれました第9回審議会の経過について、12月20日に開催されました第8回審議会の経過を報告し皆さまから承認を受け、その後第9回の会議の資料の説明を行っております。第9回の資料については2月にアンケート調査を実施するために全戸配布をしアンケート調査にも同封します中間答申に係る資料についての説明を行なわせていただきました。その後委員の皆さまからご意見をちょうだいしたところであり、ご意見をいただきまして文言の訂正と見やすい吹き出しを追加するということが決定し、小田原委員からご協力をいただいたところでもあります。またアンケート調査用紙の内容と配布対象についても審議していただきました。合わせて文言の訂正も行ないまして、配布については小学校以下の保護者世帯全世帯を対象とすることと決定したところでもあります。その後、次回の審議会を2月21日に行なうことにしまして第9回の審議会は終了したという経過でございます。

引き続き協議に入りたいと思います。座長は伊藤会長にお願いすることにしたしまして、本日の会議録署名委員につきましては1番伊藤（順）委員と3番太田委員になりますのでよろしくお願いいたします。それでは伊藤会長よろしくお願いたします。

伊藤会長 それでは協議進行を務めさせていただきますのでご協力をお願いいたします。4. 協議（1）第9回遊佐町立学校適正整備審議会会議録の承認でございます。皆さまにはすでにお手元に届いていると思いますのでご承認いただける方、挙手をお願いいたします。

（全員挙手）

はい。全員挙手、承認いたします。（2）資料説明（2月実施アンケート調査結果）、事務局お願いします。

教育課長 はい。説明させていただきます。今回の案内通知と一緒に同封しておりましたアンケート調査結果は速報値ということで若干間違ったところもございましたので、今回改めて訂正した正確なものを皆さま方のお手元に配布させていただきます。資料としてはアンケート調査2回目の配布数、回収率が一覧表になっているものから説明させていただきます。それぞれの小学校、保育園ごとに配布枚数及び回収率を記載させていただきます。今回小学校の方は90%ほどの回収でありましたが、保育園・幼稚園関係の世帯につきましては、半分ほどの回収率となっております。さらに町外の保育園に通わせている世

帯と6歳未満でどこにも所属をしていない方々の世帯を合わせますと35.2%と大分低い数字となったところであります。保育園の先生からは子育て支援係からもらったアンケート調査が大分分厚い資料がありましたので、そちらの方でアンケート調査が若干書きづらかったというところもございまして、回収率が少なかったようでありました。全体としては792世帯に配布しまして549の回収を得ております。全体では69.3%の回収率となっております。回収をしましたアンケートの内訳を表にしたものがカラーのグラフが付いている資料となっております。それぞれの保育園・小学校ごとに設問に対する回答として、中間答申で出ました平成35年統合に賛成、それでもいいという方とそれ以外で回答をいただいておりますが、大きく中間答申に賛同された皆さまは346世帯、全体の63%ほどが賛同していただいたことになっております。それ以外、記載なしという方もいらっしゃいましたが、それ以外と回答していただいた方が122世帯ございました。122世帯の内、1番下の表にその内訳を記載させていただいております。平成35年統合の次に時期を変えて統合、122世帯の内71世帯の方が時期を変えて統合した方がいいという回答をしていただいております。現状維持という方は47世帯でございました。71世帯の内、初めに2校ないし3校に統合してからと答えた方が21世帯。同じく71世帯の内、平成35年度より遅い時期に統合と回答していただいた世帯が45世帯。平成35年度より早い時期に統合と答えた世帯が5世帯。合わせまして71世帯。カラーの棒グラフを見ていただくと青と黄色の方々は、統合については前向きに回答していただいたという格好になってございます。黄緑のところは記載のなかった世帯という形になります。全体としては統合に賛成の方々は89%ほどになろうかと思っております。時期は色々ございますが、統合については概ね賛成という回答を得たと思っております。アンケート調査の関係については以上であります。

あと資料として2月1日現在の児童数の推移に変更がありました。毎回提出しております資料、今回も児童数が増えたと赤で示しておりますので見ていただきたいと思っておりますが、全体的には1、2名ずつ増加するような形です。資料についての説明は以上になります。

伊藤会長 ありがとうございます。このアンケート結果の報告に関しましてご意見等ある方、挙手の上ご発言願います。

正直申し上げまして、私個人的には中間答申の後の説明会、地域説明会後のアンケートということでございます。それで第8回審議会の中でも冒頭の各委員の皆さまから激論をしたところでございます。そういった話の内容等を個人的に思い出しますと、アンケートの結果そのものはもう少し拮抗するのではないかと個人的にはちょっと危惧を感じておりましたが、63%という数字が35年ということに対するOKというようなアンケート結果でございましたので、やはり前向きの保護者が相当いらっしゃるのだと強く感じたところでございます。これは私の個人的な感触でございます。

教育課長 伊藤会長、事務局として説明をさせていただきました。アンケート調査の結果はそれぞれ伊藤(順)委員と今野委員の方に原本を置いておりますのでそれを回していただきたいと思っておりますが、事務局で取りまとめたものが調査結果ということで綴ったものをお手元に配布をしておりますので、それもお覧になっ

ていただきたいと思っております。主に35年度に賛同された方の意見がここに載せておりませんので、調査結果のまとめたものについては統合しない場合の具体的な時期等について書いていただいた皆さまとあとはアンケート用紙の1番下にご意見をいただく欄がございましたので、そこに記載していただいたご意見を載せておりますのでよろしくお願いいたします。

伊藤会長 今事務局からお話がありましたように、両サイドの方からアンケート内容等を随時回しますのでご参照願えればありがたいと思います。

那須委員 ただいまアンケートの内容を発表していただきましたけれども、このアンケートの結果はアンケートをしていただいた皆さま方には結果という形で発表は考えていないのでしょうか。もしできればアンケートをしていただいた方々にこの結果をお知らせした方がいいのではないかと思うのですがいかがでしょうか。

伊藤会長 事務局お願いします。

教育課長 やはりアンケートに答えた皆さまもこの結果について知りたいと思っておりますので、もしよろしければグラフの付いた資料の方を対象者の世帯については配布させていただきたいと思っております。その他アンケートを取りまとめたものも送った方がよろしければそちらも送るようにします。

伊藤会長 よろしゅうございますか。

那須委員 はい。ぜひお願いしたいと思います。よろしくお願い致します。

伊藤会長 その他ございませんでしょうか。

今野委員 今、全アンケートがここを回っているわけですが、私は前回の審議会の中でお話しさせていただきましたとおり、事前に全アンケートにどういったことが書かれているか確認させていただきました。その時に今、賛成の方についてはこのアンケート調査結果に書いていないとお話があったわけですが、全体を見た感じとしまして、個人的な私の感じですが、賛成の方に関して63%ということで、それについてはきちんと受け止めなければいけないと理解はしています。ただ賛成と書いた中にも例えば、急激に大きくなることへの不安、例えば遊佐小学区に多かった、現状としても敷地が狭い。付帯事項としてきちんと整備されるのであれば賛成と逆に反対の方にも先ほどお話があったように3つを先にした方がいいのではないかというお話もあったわけですが、それぞれ数だけではなく、一言一言皆さんが書いてくれた内容についてはきちんと受けとめた上で付帯事項に載せていくべきではないかと強く感じたとします。それと内容の中にはやはり町として人口が減っていくことはもちろん、今後減るであろうことを前提に1校とお話しをしているわけですが、あくまでもアンケートは保護者のアンケートということになるわけですが、例えば人口が減らないように若者定住等の施策を町で進めているのとは真逆の地域から学校を無くすといえますか統合するわけですので、逆に蕨岡のアンケート結果をご覧くださいと分かるのですが、前回統合の問題が出た時に統合することによって学校が地域から無くなるので人口の流失が激しくなるというお話もあったということでこのように賛成が非常に少なかったということだと思っておりますけれども、そういった相反する施策について、きちんとどういった方向で向かっていくのかということもきちんと付帯事項の中に、いわゆる、学校を1つに、教育の面では1つでよろしいと思うのですが、地域と

のつながりについてどのように進めていくのか、そういったところを気になさっている回答もあったので、アンケート結果はアンケート結果で受け止める。あとは付帯事項のところきちんと入れていかなければいけないことは盛り込むという形で考えていかなければいけないと感じました。

伊藤会長 ありがとうございます。今アンケートを皆さんから随時内容等を見ていただいているわけですが、私もそれなりに拝見させていただきました。中にはやはり色んな意見がございます。その中でやはり「少しでも早く統合してください」と言う方もいます。「いつまでも統合しないのであれば引越します」とそういう方も中にはいらっしゃいます。ですからそういったこともきめ細かく皆さん共有しながらどういうふうな対応をしていけばいいのか、進めていただければありがたいと思うわけです。その集大成が63%前向きの数字になりましたという結果が出ているわけでございます。その件を皆さんと共有しながら進めていければと思っているところでございます。今付帯事項に関する今野委員の質問がありましたけれども、その件に関しましてはいかがでしょうか。

教育課長 アンケートの結果を見ましても、まずは最終答申をどういうふうにするか、最終答申に向けて皆さま方からご意見をいただきたいと思っておりますし、今、今野委員からお話が合ったように概ね諮問1にかかる時期については大体そういう時期になろうかと思っておりますし、問題は今後、合わせて考えていかなければならない付帯事項にかかる部分、これをどのようにしていくかということになろうかと思っておりますので、その辺についてご協議いただければと思っております。ですので、もし、最終答申の協議に移ってよろしければ、中間答申の資料、答申書を皆さまに配布をしておりますので、これを元に最終答申に向けた案文、付帯事項の整理等を含めましてご意見をいただければと思っております。ある程度、事務局としては中間答申の中間というところを除いて、最終答申に向けた案文作成にしたいと思っておりますが、直接考えている文で中間答申を元に説明をさせてもらってよろしいですか。

伊藤会長 ちょっとお待ちください。その前に皆さんのご発言内容でございますが、前もってアンケートのデータはお送りさせていただいたわけでございますので、とりあえず、PTAの皆さん。

佐藤（憲）委員 私の意見を申し上げたいと思っております。アンケート結果について、5つの小学校に回収率が高率であることについて前回お願いした各PTAの会長はじめ皆さんが積極的に声かけをした結果と思って大変うれしく思っております。この35年の部分については、大方、相当の数の賛成があるということですので、私は中間答申のとおり形で進めていくべきだと思います。なお、こちらに書いてある色んな分野における要望、意見等が分類ごとに書いてありますが、それは前回中間答申で出した8項目に入るものについてはここに入れていく。その他まだ漏れている情報があるとすれば9項目を起して、きちんとアンケートを出された方々の声を拾っていく、その姿勢は貫くべきだと思うし、これまでも入れるという部分は確認してきておりますので、今回はこの形でぜひ進めていただきたいと思います。

伊藤会長 ありがとうございます。それでは、統合したしまして先輩の藤崎小学校の西遊佐地区代表の伊藤（悦）委員。感想あったらお願いします。

伊藤（悦） 藤崎学区を見ますと7割の方が賛成ということで結果を出しているようで

委員 すけれども、私も放課後子ども教室の方で子どもたちを見ていますけれども、その迎えに来るのがだいたい6時前、保護者、おじいちゃんおばあちゃんも迎えに来ますけれども、おじいちゃんおばあちゃんに聞いても分からないと言うものですから保護者が直接迎えに来た時に尋ねたところ、皆さん賛成ですと一様に答えていただきました。それである1人のお母さんのみ「35年だと教室が足りない、増設するのは反対」だと「どうしてですか」と聞くと「プレハブだと子どもたちの勉強する環境には合わないのではないか」と言われました。でも今「プレハブも気密性良くなって冷暖房も完備」ということは伝えておきましたけれども、その方のみ反対ということを知りました。あとの皆さんは一様に賛成と話しておりました。それで私は中間答申の案をそのまま出していたら統合に向かって進めていただきたいと思います。

伊藤会長 ありがとうございます。隣の稲川代表眞嶋委員。

眞嶋委員 私も先にアンケートの結果を見てかなりの高さで藤崎小学校は賛成が多いと感じました。特に5年前合併した中でそんなに合併に関して反感がないのかなという感じがしました。ただ私は今藤崎小学校の運営審議委員で、コミュニティ・スクールの活動に携わっている。今藤崎小学校はコミュニティの中ですばらしく取り組まれているので、それが全体になった時にそのまま続けられるように進めてもらいたいというのが私の意見です。やはり地域とのつながりが少なくなるとコミュニティ・スクールの本来の目的が離れるのではないかなという感じがしますので、その点は付帯事項の中で考えてもらいたいと思います。

伊藤会長 ありがとうございます。太田委員いかがでしょうか。

太田委員 私も基本的に今までの意見と同じように中間答申を基本にしてそして進めていっていい、感じなのかなと思っています。ただ、先ほどから出ています付帯事項、この審議会でも付帯事項の話し合いは今までそこまで余裕がないということもありましたので、出された付帯事項、それから賛成反対を別にしてこのようにしてもらいたいという保護者の要望はきちんと整理して進めていけばいいのかなと思います。

伊藤会長 ありがとうございます。小田原委員どうでしょうか。

小田原委員 今実際のこれを見ながら感じていることですが、数字として進めてほしいが6割強あるということはそれが結果と思って、中間答申どおり行くべきかなと思います。色んな不満もある、こんなに何回もお知らせしたとおりにだから、あまり中身までがっちり読まなかったのかな、まだ分からないでいるのかなと、私たちが一生懸命ここで喧々諤々やっていることが伝わっていないのかなと感じるところもあるので、またこれに対しての回答はちゃんとアンケートしたところに回答するべきということと、付帯事項にちょっと面倒でもアンケートの結果に即したものを付けるべきではないかと感じています。

伊藤会長 ありがとうございます。吹浦代表の佐藤（浩）委員。

佐藤（浩）委員 アンケートが家に送られてきたとき、最初に吹浦小学校、吹浦地区を見ました。これはなぜかという吹浦代表として審議委員としてやってきたわけですから、基本的には中間答申に沿ったデータが出てほしいという願いで期待しておりましたし、そのようになって良かったと私は思っております。そしてなぜこういうふうになってくれたのかと思うときに、当初の頃は遊佐までくるのは

吹浦が1番遠い。交通の距離については。そういうのがありましたし、反対の意見がとても多かった、はっきり言うと。それでもまちづくり協議会会長等の人集め、区長会等で父兄に対して説明、区長等に話し合ったりしてなんとか、プラスの方、やろうという方に進めたいと思うのは正直な気持ちです。他の地区のものを見て、何かを批判することは問題等あると思うのですが、蕨岡小学校のデータ、どうしてこんなに反対が多いのか、私は正直なところ疑問に思います。努力したと思うのですが、地域性や文化の違いがあるのかもしれないけど、中間答申でやろう一応決まったわけですから、そのようになりたいたいと期待するのは私だけではなかったのではないかと思います。結論的に言えば、63%がやりたいというわけですので、これはその形で進むべきだと思います。吹浦の場合正直なところ、賛成、統廃合してもいいという人の中にも反対の人はもちろんいます。それでもみんながそうやって、やっていこうとする気持ちであれば、がんばろうという人も出てきているのも正直なところだと思います。ですからこのデータを私は信頼して進んでいいのではないかと考えております。

伊藤会長 ありがとうございます。佐藤（美）委員よろしく申し上げます。

佐藤（美）委員 周りの保護者の方とお話しする機会がありまして、その中で1保護者として意見を伺ってきました。やっぱりアンケートの結果からもそうだと思うのですが、統合時期や不安ということをお話している保護者は、統合時期に最高学年6年生になるお子さんをお持ちの保護者が多いと感じていました。やっぱり「なんで家の子が6年生になる時に統合するのか」という不安がどこからくるのかと聞いていたら、6年生は小学校生活、行事1つ1つが締めくくりになっていくと思う、PTA組織の運営がスムーズにいくような形になるには、統合時期が見えているなら6年生の保護者になる方たちのコミュニティ作りを早くしていただければもっと不安が無くなっていくのではと思っています。親同士の仲が良いと子どもたちも安心して遊べると思います。その辺のコミュニティ作りを早めをお願いできたらと思いました。

伊藤会長 ありがとうございます。まさしくその時6年生になる児童の親御さんであれば心配だと思います。その辺に関しまして事務局、ご意見等ありますか。

教育課長 私も個人的にアンケートの結果を集計したものですからそういった保護者の皆さまのご意見が多かったように思いました。やはり統合直前に保護者同士、あるいは子ども同士の交流会では遅いと、もう来年度からでも色々な交流の機会を設けるべきと感じております。その辺も付帯事項に盛り込んでいけたらと思ったところであります。

教育長 直接お答えすることにはならないかもしれませんが、そのような思いがあるのは当然受け止めなければならないと思います。逆になれば、みんなでまとめて良い学校を作ろうと、その卒業の第1期生になる子どもたちでもあるわけですので、そういう思いで色んな懸念される、心配されることは当然だと思います。英知を寄せ集めて、特に保護者の皆さん、学校の先生方、地域の皆さん、町全体がコミュニティになっていくのだと、その我々が第1期生だとそういう思いで卒業できるような、まさにコミュニティ・スクールがそこにあると思います。その辺を繋げていけるような行政も学校もPTAも地域の皆さんも思いを1つにして、ただ今の段階で面白い話が出ていまして、平成32年、2年後

から新しい教育課程で正式に英語の学習が始まったりするわけですが、今各地でカリキュラム、教育の中身の見直しをどの学校も真剣にやっていますが、やっぱり修学旅行の時期を見直したいという学校がありまして、じゃあそういう時期でやるなら、ある学校も6年生10名前後しかいなくて、この学校も10名いるかないかなのですが、一緒に行けばいいのではないかと。今ちょうど校長の年度末の経営のまとめの面談をやっておりましたのでそういう話しもできておりました。それは1つ学校と1つの学校の合同の修学旅行とかの話題でしたけれども、そんなものを準備期間の間に色々すり合わせながら、子どもたちスポーツは野球もサッカーも剣道もバスケも同じチームでやっていますし、保育園幼稚園時代も色んな学区の子どもたちがわいわい遊んでいるので、子どもたちはそんなにわだかまりはないという思いもありますけれども、もちろん、親御さん、地域の皆さんの思い様々あるわけですので、色んな声を聞きながら準備の段階でそういったものを大事にして進めていく必要があると受け止めております。ご意見ありがとうございました。

伊藤会長  
総務課長

よろしゅうございますか。それでは総務課長お願いします。

私の感想も皆さんとほぼ同じでありまして、このアンケートの結果につきまして、概ね賛同を得たと、中間答申に賛同を得たと民意の表れかと受け止めた次第であります。そのことはすなわち会長が冒頭あいさつで、これまで8回9回と議論を交わしてきたというお言葉がありましたが、まさに皆さんから熱い議論をしていただき、慎重かつ真剣な議論の結果として当審議会が正しい方向性を導いた結果だというふうに私としてはホッとしているところであります。

伊藤会長  
那須委員

ありがとうございます。それでは那須委員。

今、委員の皆さま方からご意見が出た通りであるのですが、実は私、前回の資料を読み直して、教育長のお答えの中に予算の編成のところ、35年度に学校と一緒にするならば、34年度には完成していなければならないというところがありました。その中で基金というお話がありましたけれども、例えばその34年年度までに完成できるような見通しがあるのかどうか、その辺のところをもう1度確認したいと思いますのでよろしく願いいたします。

伊藤会長  
教育長

基金に関することですが、

具体的な金額は申し上げません。ここに総務課長、財政を担っている方がいるわけですが、当然審議会のこのように審議、中間答申を出して、町民の皆さんに是非を問うているということは逐一財政にも町長にも伝えてありますのでそれを今さらできませんなんてことはないわけでありまして、具体的な数字は申し上げません。それは準備段階の話だと思いますので、財政の方とも逐一情報を流しているということでご理解いただきたいと思います。

那須委員

わかりました。私もアンケートの結果を踏まえまして、今のお話も踏まえまして、中間答申は本当に重いものでありますので、皆さんと同じ考えでぜひ進めていただければと思っております。

伊藤会長

ありがとうございます。高橋（太）委員お願いします。

高橋（太）  
委員

私も地域でこの統合の対象のお父さんたちと話す機会がありました。私がお付き合いしているお父さんたちは割と時代に適応しようとする前向きな人としか話していないところはありますが「すぐ統合した方がいい」というような人たちばかりです。少しだけ後ろ向きなことを言う人もいましたが、私の子ども、



ミニバスケの男子のスポ少で、2年前に女子の方で合併があって、選手の登録が4月なので、4月に向けて話し合いを何ヶ月かしたら結局不安が残る意見、揉め事が大分ありながら合併して、今は見ていると楽しそうにやっている。今年から男子の方も4月には合併しなければならないかもと話をしていたら、指導者、コーチ、保護者会もいきなり新年に入ったら行動も一緒にやっつけてしまえとやっている。4月まで事務的な部分をまとめていこうという形で、強引なやり方ではありますがやって、とにかく合併してよかったと思うのは子どもたちが楽しそうなので、今回の学校の統合のヒントになっているのかなと思ってみました。スポ少で、だんだん事務的な部分を温めるというのは、そういうもののために各地区でコミュニティ・スクールを作っているのだと思っていますので、そこの意味をだんだん重ねていながらやっていけるのかなと思っています。先ほどから出ている付帯事項に関して、私も増設しなければならない部分はもう少し説明していただけたらと思っています。

伊藤会長 ありがとうございます。続きまして阿部委員。

阿部委員 高瀬の阿部です。感想ですけれども、結果はご覧の通りということで皆さんと同じように中間答申の年度で進めていくべき、そういう形になるかと思えます。先ほど佐藤（憲）委員からお話しありました。アンケートのコメントを見ていると私は35年に統合になる場合の当事者が多かったように思います。絡まない方々は意識が薄いといえますか、そんな感じなのかとアンケートを見させていただいた。やはり早い段階で地域の枠を超えてそれぞれの学年の子どもたち、保護者の皆さんが交流できるような場が必要になってくるのかなと思いました。あと心配と言ったらあれですが、最終答申が出て、今度準備委員会が立ち上がっていくわけですが、35年、それが目標なのでこだわるのが当たり前なのですが、準備計画と実行自体が様々な課題がある。無理な計画、予算も例えばあまりに膨大に掛かるとか色々あると思いますので、慎重かつ確実に子どもたちが安心して1つになった学校で学ぶ環境が確実に整うように心から願っている感じです。

伊藤会長 ありがとうございます。川俣委員お願いします。

川俣委員 遊佐小のアンケートの結果大変高い賛成率でした。実際私の周りでは反対とか時期を変更してくれとか言う人はいませんでした。ただ現1年生の保護者からは「環境整備は本当に大丈夫なのか」という声も聞かれました。あとは親の交流をなるべく早めにしていただけるように言うておりましたのでお願いします。

伊藤会長 ありがとうございます。今野委員。

今野委員 アンケート結果なのですが、先ほど蕨岡だけなぜこういう結果なのかというお話があったわけですが、アンケートの回収率をご覧いただければ分かりますように、蕨岡50件中49件の回収をさせていただいているようです。特段私の方でさせていただいたのは「今回のアンケート、皆さんの思っていることを書いてください」ということで各世帯に文書を配布させていただいたことだけです。なぜこのようになったかは私にも分かりませんが、先ほどの表の下の蕨岡小学校をご覧いただければと思うのですが、35年で賛成が39%、時期を変えて統合が31%ということで、両方のトータルいわゆる統合に賛成は70%ということになると思います。ただ上の方は35年ということで3

9%だけが賛成。蕨岡だけ単独で残してほしいということではなくて、今回の中間答申の35年度に関しては、私も蕨岡のPTAの代表としましては、このアンケートのとおり、統合に関しましてゆくゆくは統合すべきだろうと理解はしていますが、35年ということに関してはやはり40%を切っているということになりますので、私としては現段階ではこの蕨岡の保護者の気持ちを尊重したいと考えております。

伊藤会長 ありがとうございます。委員の皆さんから感想を述べていただいたところでございます。私も西遊佐地区の代表というようなことで出席させていただいております。このアンケートに関しまして藤崎小学校の保健委員会がございまして、その時PTAの役員の皆さんが6年まで皆さんお集まりになって校医の先生も参加する保健委員会に参加させていただいた折にぜひとも「このアンケートに関してご協力いただきたい」と「何らかのコメントを出しつつ投かんしてください」とお願いしたところでございます。それで西遊佐小学校と稲川小学校が統合して5年。まだ6年経っていない。というようなところでまた統合かというような新たな課題が保護者の皆さん、地域には被さってきたわけです。そういったことで私は正直もう少し抵抗があると思いました。「5年しか経っていないのにまた統合か」というようなイメージが強いのではないかと個人的に思っていました。しかしながら、アンケート結果を見ていただくと分かる通り70%の方が統合の方がいいという意思表示しているわけです。それはなぜかという統合する前に各地域で特に西遊佐の場合は地域の皆さんが極端に反対した。「冗談じゃない」と地域の皆さんが本当極端に統合には反対しました。そういう歴史を辿っています。はっきり反対した人から聞いていますので、その方はやっぱり地域で一生懸命地域に尽くしている方で、学校の児童たちとも絡みがある。地域講師と呼ばれている存在ですけれども、その方たちが本当に率先して反対した。統合した暁に学校との絡みがあるから学校に行くとやはり「子どもたちの目の輝きが違う」と何回もおっしゃっていました。「やはり子どもの数は少ないよりも多い方がいい。子どもらしい」とこういうような相乗効果がある。そういうような論法のようにございます。これはその方が「もっと早く統合させればよかったと逆に自分は後悔している。反対したことを」そういうようなことをおっしゃっていますので、西遊佐地区としてこのようなアンケートの結果が出たことに対しては、やはり子どもたちの環境的には多い方がいいという結論と私は強く感じているところでございます。そういったことも含めまして、次のアンケート結果についての意見交換にもう入りますけれども、この辺で意見交換①は閉めたいと思います。

伊藤会長 佐藤(浩)委員。

佐藤(浩)委員 保育園のアンケートのデータですが、結構高く出ている特徴があります。それで蕨岡を責めるわけではありませんが、蕨岡地区の保育園等の子どもたちは、杉の子幼稚園に通っているのですか。

佐藤(浩)委員 隣の方に聞いたら、酒田市の鳥海保育園、本楯にある。そういうところに蕨岡の子どもたちも通っている部分もあるということでもあります。そのデータが出てない。

教育長 町外にいる人も保育園に入っていない人もアンケートに入っている。

佐藤(浩)委員 そうではなく、吹浦だったら吹浦保育園の父兄の数が出ている。蕨岡の保育

委員 園に通っている父兄のデータというのはどこに出てきているのですか。

太田委員 蕨岡地区は遊佐保育園に入っている子もいれば、保護者の関係で数は分かりませんが、他地区の保育園に入っている。遊佐町内の保育園とかあるいは近隣の酒田、うえだ保育園、蕨岡地区と隣接しているものですから、そういうところに行っている子どももいると思います。あとは杉の子幼稚園。町外ほかに出ていると思います。

佐藤（浩）委員 何を言いたかったかという、要するに吹浦だったら吹浦保育園父兄のデータ、遊佐は遊佐保育園父兄のアンケートのデータがあるわけです。そうすると蕨岡地区の保育園に通っている父兄のデータがどこにあるのか質問したわけです。さっきも言ったが蕨岡を責めるわけではないがどうしてこんなに違うのかと思ったりして、そのデータの内容を知りたいと質問している。結果だけ見てがたがた言うわけではないけれども、今言ったように考えたのは保育園に通っている父兄のデータがもしあったらと思ったので

伊藤会長 佐藤（浩）委員の意見は分かります。そこを太田委員から蕨岡代表ですので、太田委員お願いします。

教育課長 すみません。事務局でアンケート集計した時の数字はございますのでそれを申し上げます。杉の子幼稚園で蕨岡と回答した方は10名、遊佐保育園には7名、町外保育園も7名と把握はしております。ただその方がどちらに回答しているかは後ほど調べないと今はすぐお答えできません。

佐藤（浩）委員 やっぱりそういう独特なものがあると分かっただけでも質問の意味があったわけです。ただ人が質問しているのに何か言われるのはおかしいと思います。質問したいのに発言できない。

伊藤会長 太田委員お願いします。

太田委員 今事務局から説明があったとおりと私は考えています。保育園は学区と地区が一致しませんのでそのようになるのではないかと思います。それから先ほどから蕨岡がどうしてこんなに低いのかということも出ていましてので、蕨岡の場合ですと、26年に遊佐小学校と蕨岡小学校を統合するということがありました。やはり地区の中には、以前審議会でお話しさせていただいた気がしますが、その当時のいきさつ、揉めたこともありますので、他の学区の考え方と少し違った捉え方がされていることは実際あると思います。その方たちもまだ小学校の父兄ですし、当時の事情もよく分かっている方もおりますので、できればこのままで、今のままでという考えは保護者の方には他の地区よりは多いのではないかという感じで私はアンケートの調査を見せていただきました。確かに蕨岡小学校だけ40%に満たない。でも全部反対というわけではない。このアンケートが全てじゃないと私は思っています。意見の1つであって概ねそのような方向で捉えられていると分かればそれでいいのであって、今さら蕨岡地区の取り組みがどうのこうのと言われても、私も積極的に、区長とかそういう立場にはないですし、機会もありませんでしたので、審議会の一委員としてしか地区の中でも動きはしませんでしたので、そのようなことには回答できません。地区がこのような状態ではないと思います。

佐藤（浩）委員 よく分かりました。

伊藤会長 ありがとうございます。今野委員。

今野委員 今のお話についてもそうですが、先ほどから蕨岡が中間答申のおりに行っ

ていないというようにお話が聞こえてしまいます。ただ私自身は先ほどお話ししたとおり中間答申はあくまでも中間なので、その出た中間答申を読んだ上で皆さんがどう思うか書いていただきたいだけ述べた。ですので、中間答申のとおり35年に賛成だという人が少ないと言われても、現段階で蕨岡の保護者が考えている考え方がこれだということになるので、その部分について結果はどうであれ保護者の考え方ということでご理解いただくしかないと思います。ただ先ほど太田委員からもお話しありましたように蕨岡については以前に単独で遊佐と蕨岡、統廃合に向けての話し合いを開始したこともございます。その時に前回のお話も含めましてそれぞれ保護者が真剣に考えた上で、今回のように大きい学校がいいのか、現状をずっと残してくれというのは、このアンケートの結果から見ても非常に少ないということをご理解いただけたらと思います。このアンケートの結果、先ほど私70%が統合については賛成だとなっているわけから、時期についてだけ違うのではないかというお話しただとご理解いただければと思います。

伊藤会長 ありがとうございます。他にございませんでしょうか。

小田原委員 このアンケートを実際に見ましたら、賛成のところの意見もかなりちゃんと書いてある方がたくさんおられましたので、それをちゃんと仕事を増やして申し訳ありませんが、それでもきちんと書いてあるのが結果としてであれば、藤崎小なんか本当に一緒にしてよかったと書いてある意見もございましたし、そういうのもちゃんとあれば私は平等かなと、反対意見ばかりを見せられると人間は気持ち的にノウとなってしまってこれに何と答えていいものかと、とても暗い気持ちになるので、賛成のところでもとってもいい意見がどっさりございましたので、仕事を増やして申し訳ないのですが、それも載せてアンケート結果として配布できるようになっておれば真意が伝わるのではないかと思います。

伊藤会長 ありがとうございます。他にはないですか。それではアンケート結果に閉めさせていただきます。②最終答申について、これについて事務局お願いします。

教育課長 色々ご協議いただきましてありがとうございます。やはり皆さま方の意見もちょうだいしながら前回出した中間答申をベースにいたしまして最終答申に直していきたいと考えております。お手元に中間答申書を配布させていただいておりますのでその中で大まかに直すのは付帯事項の方かと思っておりますけれども、具体的にどの辺を直していくかは、最初はこちらから案を出させていただきたいと思っております。中間答申ではないので表題のところも遊佐町立学校適正整備に関する答申書という形に直します。文言としてはその以下の部分3行目、7回の審議会となっているところをここは10回にしますし、その下の6行目、次のとおり中間を外しまして答申いたしますという形に直したいと思っております。記以下については、1 諮問事項は変わりませんので、2 諮問についての中間答申についてであります。中間答申というかっこ書きがありますところを答申に直します。先ほどから今野委員の方からありますが、グラフの中で黄色の部分の時期の見直しを回答されている皆さんがいらっしゃいます。答申の中で2023(平成35)年度というところを明記していいのか、この辺も後ほど協議をお願いしたいと思います。それから裏面に参りまして、さらにかから下の4行は削除いたします。この辺の説明は終わりましたので。(2) 諮問2でありますけど、ここは中間答申のかっこ書きを答申に直します。以下、先ほどよ

り話になっている付帯事項については現在8項目が載っていますが、ご意見としてちょうだいしております地域とともにある文言ですとかコミュニティの関係の文言、保護者や子ども同士の交流の部分についての推進に係る部分、これを付帯事項に加えていきたいと思いますが、今それはこちらの方でも提案できませんので、次回の会議までにこちらの方で付帯事項に追加する部分の記載をさせていただいてあらかじめ委員の皆さんに配布をしたいと思えます。その前に今の段階で追加していただきたい項目を具体的に入れていただきたいところがありましたら、ご意見として伺いたいと思えますのでよろしくお願ひいたします。

伊藤会長 ありがとうございます。最終答申というところでの内容でございますが、特に付帯事項に関することで追加、ぜひこれは追加してほしいという要望等ございましたら挙手の上お願ひいたします。

先ほどの話し合いの中で何件か出ていました。

教育課長 今野委員と眞嶋委員の方からもご提案いただいておりますので、そういったところをどういった文言にしたらいいのか。委員の方からご提案いただければ大変ありがたいところでございます。

眞嶋委員 今から25年前ですけれども、私たちがPTAをやっていたころに新中学校の統合でかなり議論いたしました。その時に学校の連絡協議会の会長が当時町長の時田博機さんでしたので、何度も集まりました。当時もすごい不安で父兄、PTAの役員の中でも不安でした。当時も中学校のガラス破壊事件とか明倫中の事件とかがあった時期でしたので、合併前にPTAの方々が何度も集まってやっぱり親が仲良くなれば子どもたちだって自然と仲良くなると思えますので、その点は早くから交流していけばそんなに心配しなくてもできるのではないかと私は考えております。

伊藤会長 規模は小さくても違っていても、西遊佐小学校と稲川小学校が統合した時の流れというものもあろうかと思えますので、その辺も参考にしながら事務局の方でも対応していただければと思えます。

その他、この最終答申に対するご意見等ございませんか。

那須委員 すいません。私個人の意見を申し訳ありませんが、アンケート結果で時期を変えて統合という方々のたくさん案がありましたので、もし可能であれば、答申の2023(平成35)年度となっておりますが、35年を目途にという形で入れていただくことはできないでしょうか。一応時期をずらしてという意見もございましたので、私個人の意見で申し訳ありませんがこの文言を入れていただくことはできないでしょうか。

伊藤会長 平成35、2023年度ということで中間答申でははっきり謳っている。そのところに目途というご意見が出ましたけれども、委員の皆さまいかがでしょうか。

佐藤(憲)委員 今の発言大変大事なところだと思います。アンケートの対象者全員に配布した問3①が2023(平成35)年という設問項目になっている。それを今さら目途とかおかしいのではないか。それはこれから進められる新たな委員会の中で順調に進むあるいは遅れている。結果としてそうなる部分はありますが、ここにそういう形で設問して答えていることであれば、ここを今変えるのは私はおかしいと思う。

那須委員 それはそれで結構ですので、私個人の意見ですのでよろしくお願ひします。  
佐藤（憲）委員 例へば、付帯事項 8 項目あつて、9 番目、上記に属さない例へば少数意見のものうんぬんの文言はおかしいものか。急に今アンケートに書かれた意見がいっぱい色んな分類で書かれているときに次回までよく見てみてこれ 8 つに分類されないものか分からないが、と今一瞬思つた、急に 9 番目をおこすとか今日配られても分からないので、次回まで場合によっては 9 番目がないかもしれないが、上記うんぬんの文言はおかしいですか。  
例へば、保護者同士の交流の機会を早期にあるいは大事にしてほしい。というご意見もありましたので、そういうご意見も配慮してほしいとか。  
例へばできるものから実際にやってみるとか、それを次回まで考えてきたい。それはうんぬんではなくて各自。

伊藤会長 それでは次回まで。その他ございませんでしょうか。

伊藤（順）委員 学校の立場でお話しさせていただきますが、付帯事項 8 項目あるわけですが、これから前に進むとなると統合準備委員会がスタートし、その中で様々な付帯事項ない部分での細かい部分がいっぱい出てきます。そうするとここには書いていない。例へば、私が上げようと思つているのは現校舎のトイレとか水回りであるとか今の段階でもいっぱいいっぱいのところがあるので、そういった部分であるとか支援団体関係のところではもっといっぱい見守り隊であるとかスポ少関係もそうですが、そういった部分も出てくるので次回まで入れられるものは全部入れていただいて、さらに統合準備委員会で細かく見ていくことで進めてはいかがかんと思つております。

伊藤会長 貴重なご提案ありがとうございます。

太田委員 付帯事項のところにも等（など）とあります。各 1 番から 8 番までそれぞれ、等とありますので、その辺の部分については先ほどの保護者のアンケートの中で 1 番下に書かれてあつた要望とかその辺の中の記述内容も 1 番から 8 番に入るのではないかと思われるようなものもあると思つますので、その辺の見直し、再度確認も必要ではないかと思つます。それと先ほど 2 ページ目のさらから特に丁寧な説明をされたい。の部分はカットするというお話がありましたけれども、ここに 2023 年年度にスタートになるとすれば、現実的に前年度から高瀬小学校では複式が始まるわけです。2、3 年の複式。ですからそのことについて付帯事項に載せてもいいのではないか。全部カットではなくてそんな感じがいたしました。3 番の校舎・校地環境の整備とか支援体制の整備に含まれるのかと思つますが、複式についても入れていただきたいと思つます。

教育課長 太田委員のご意見、その前のページの下に若干書いてございますがそれではまずいのですか。

太田委員 はい。分かりました。

伊藤会長 他にございませんでしょうか。

小田原委員 アンケートを 2 回も取つたわけですのでその言葉を最初に「11 回の審議会を開催してきました。また、保護者等には 2 回のアンケートを行ない、その意見も取り入れ審議会で揉んでまいりました。」ぐらいは入れてもいいのではないかと思つます。

伊藤会長 事務局。

教育課長 はい。分かりました。

伊藤会長　　その他ございませんでしょうか。無いようでございますので、最終答申ということで、いま皆さんからご審議いただいた内容の中でとりまとめていきたいと思えます。皆さまのご協力をお願いいたします。以上を持ちまして協議は閉じさせていただきます。事務局どうぞ。

教育課長　　ありがとうございました。それでは最終答申（案）については事務局で今いただいたご意見を反映させたものを赤字等で記載をしまして次回の会議3月7日に予定したいと思えますので、2月中でも早目に案文ができましたら皆さま方に送付をさせていただきたいと思えます。当日はそれを元に最終答申という形で会長から教育長に答申をしていただく方向にしたいと思えます。その場で手直しする形になりますのでそれまでに案文については皆さま方からは直すところは次回まで見ていただきたいと思いますと思っております。それから先ほど中間答申の、最終答申（案）に向けて直すところを申し上げましたが、審議会の経過が第7回までしか載ってございませんでしたので、11回まで載せて、その辺も直して案文として送らせていただきますのでよろしくお願い致します。なおアンケートの結果については賛成の意見も取りまとめた上でグラフの表示しながら小学校以下の保護者世帯には全て送付をさせていただきたいと思えますのでよろしくお願い致します。

伊藤（順）委員　　すみません。3月7日に遊佐小学校のPTAの新旧の引き継ぎの会がこの時間にあります。会長と私はこちらに出ないといけない。

教育課長　　それでは7日はいかがいたしましょうか。8日にいたしましょうか。委員の皆さまは。あまり遅くなるよりは7日の週で最終答申いただきたいと思ったのですが。

佐藤（憲）委員　　6日はだめなのか。

教育長　　もし6日に皆さん異論がないなら6日にしてもらって。

教育課長　　6、7、8日の内に決めたいと思えます。

佐藤（憲）委員　　日程だけ早く教えてください。

教育課長　　すみません。皆さん全員が都合のいい日がなかったので3月6日か8日に明日中に決定をして通知を出させていただきますのでよろしくお願い致します。それでは皆さまありがとうございました。以上を持ちまして第10回適正整備審議会を終了させていただきます。どうもありがとうございました。